

What I've learned in my life now is to have integrity.

今、自分の人生で学んだこととしては、筋の通った人格であるということがあります。

what I've learned in my life 自分の人生で学んだこと

パターン表現 これ全体で大きな名詞のかたまり (= 名詞節)です。[what S + V] のような疑問詞を含む名詞節は、英語では非常によく使われ、それ全体で一単語のような感覚です。[what S + V] 全体で、「～こと！」のように一単語の感覚を持って聞き取れるようにしておくと、聞き取りが楽になります。

integrity 筋が通っていること

やまと言葉 辞書などでは「正直さ」と訳されていますが、もっと意味が深い言葉です。日本語になりにくいのですがももとの意味は「欠けや混じりなどない、完全なひとつのまとまり」という意味です。人格に関して言えば、そのとき、そのときで「うそをつかない」ということを見ているのではなく、その人が一貫して、常に、全てにおいて、ひとつの価値観などで貫かれていて(= 一貫、一体)、それに外れるうそやごまかしなどが無いことを言います。

Integrity means to say what I mean, mean what I say, but to do it with dignity and respect.

筋の通った人格というのは、つまり、本心を語り、言ったことに責任をもち、しかもそれを尊厳と相手を尊重する心をもってやるということです。

...means つまり、どういうことかという

ロジック to mean ~ が「～を意味する」という意味であることはお馴染みだと思いますが、ここでのように、前に言ったことを受けて「前に出てきた名詞(または This) means ...として、「これって、つまり・・・」「これって、どういうことかという・・・」と、前に言ったことを詳しく説明する感覚でよく使われます。特に、integrity 「筋が通っている人格」のように、人の特徴や価値観を表す言葉は、概念的で漠然としているため、人によって解釈や頭に浮かべるイメージが異なる可能性がありますね。したがって、このような概念的な言葉を使ったときには、その言葉で「どういうことを言っているのか」を具体的に説明したり、定義したりするサポートが後ろに続くことがよくあります。この点を意識して、概念的な言葉がキーワードで出てきたら「あ、もっと詳しく説明してくれそうだな」と次を楽しみに待ち、続いて「名詞 (This) mean(s) ...」ときたら、「あ、やっぱり来た、来た」と落ち着いて聞き取ります。

to say what I mean, mean what I say 言行一致、言葉にうそがない

慣用表現 これ全体で、「言行一致」「言葉にうそがない」ということを言うときの決まった言い方です。to mean が「意味する 意図する 本心で思う」という意味になることから、「what I mean (本心で思うこと)を言い、what I say (自分の言うこと) を mean (本気で意図する)」といった意味になり、前述のようなメッセージになります。

what I mean 本心で思うこと

パターン表現 [what S + V] の名詞のかたまりシリーズがまた出てきました。すぐ後ろの what I say もこのシリーズですね。それぞれ意味は前述の通り。what I mean 「本心で思うこと」、what I say 「言うこと」のように、一単語感覚でサッと意味がつかめるようにしておくと、聞き取りで大きなプラスになります。

dignity 尊厳

やまと言葉 dignity は「尊重に値する尊さと価値があること(状態・様子)」というのがコアの意味です。そこから派生して、人の様子なら「威厳」、人のあり方や人柄であれば「品位、尊厳」、自分の内面についてなら「自尊心」などの意味になります。要は、人から見る場合も、自分で見る場合も、「尊重に値する価値がある」と感じられる状態が dignity で、「それに見合うように」、あるいは「それを反映するかたちで」何かをする場合に with dignity という表現を使います。respect と共に、英語圏の文化で大切にされている価値観のひとつで、with dignity and respect と respect とセットで使われることがよくあります。

respect 重いものとしてみる気持ち

やまと言葉

辞書などでは「尊敬」と訳されていますが、多くの場合、そう理解するとピンときません。コアの意味は「重いもの（価値がある、大切なもの）としてみる気持ち」を言います。したがって、respect for human life（人の命を大切にすること）といった使い方が見られるわけです。そこから派生して、コンテキストによっては「相手の優れた面についての尊敬」「礼儀」「尊重」などのいろいろな日本語の概念がぴったりときます。

スピーカーがここで言っているのは、すなわち、自分に正直に生きるのだが、同時に「(with dignity) 品位をもって、尊厳あるやり方で」そうするし、他人に対しても「(with respect) 相手を尊重する心をもって」、そう生きるのだということです。つまり、自分の「価値や尊さ」に恥じない品位と、他の人の「価値や尊さ」を踏みにじらない態度を言っているのです。